

多様性を尊重する心 vol.3

インクルーシブ教育ってどんなもの？



個性やちがいを尊重し合い、誰もが自分らしく、安心して生きていける、そんな温かい社会を目指して「多様性を尊重するシリーズ」の第3弾のテーマは、インクルーシブ教育です。共生社会を生きる私たちにとって重要な視点になる考え方ではないでしょうか。あらためて、このインクルーシブ教育について一緒に学んでいきましょう。

インクルーシブ教育はどんな教育？

インクルーシブ教育とは、障がいの有無や人種、性別、経済状況などにかかわらず、すべての子どもたちが同じ場で共に学び、成長することを目指す教育の考え方です。従来の特別支援教育のように、特別な支援を必要とする子どもを分離して教育するのではなく、多様な子どもたちが共に学び合う環境を整えることを重視しています。特別な配慮を必要とする子どもも、そうでない子どもも、多様な価値観に触れることで、生きる力と社会性を高めるとされています。

インクルーシブ教育がもたらすメリット

インクルーシブ教育は、特別な支援や配慮を必要とする子どもたちだけでなく、すべての子どもたちと学校・地域社会全体にもよい影響を与えていると言われています。

1. ちがいを認める心・社会性の育成

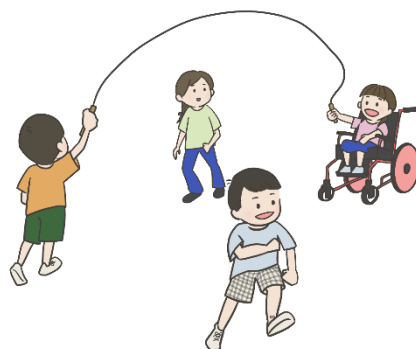
様々な特性をもつ仲間と関わることで、子どもたちは多様性を自然に受け入れます。これは、互いの個性や強みを認め合う力を育みます。また、困っている仲間を助ける体験、自分と違う視点を知る体験は、思いやりや協力の精神を高めることにもなります。

2. より良い学校授業・支援の質の向上

一人一人の学び方や理解度に応じたきめ細やかな支援や、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業が日常化することになります。すべての子どもにとって分かりやすく楽しい授業や活動を行うことができます。また、多様な子どもに対応するために研修を行うことで、指導の引き出しが増え、教育の質の向上につながります。

3. 偏見の解消と共生社会に向けた土台作り

子どもの頃から多様な人々と共に過ごす経験は、子どもたちにとってかけがえのない経験となります。多様性を受け入れる環境で育った子どもたちは、コミュニケーション能力や受容力、調整力に優れ、異なる背景をもつ人々と協働が求められるグローバル社会の中心で活躍する人材として成長します。



おわりに

インクルーシブ教育の実現は、学校だけではできません。保護者、地域、そしてすべての大人の皆様の理解と協力が必要です。家庭でも地域でも、学校と同一の歩調で、子どもの特性を「個性」として認め、尊重する姿勢を子どもたちに示していくことが求められます。親子で正しい認識をもつことが何より大切です。また、学校としても、家庭や地域で暮らす人々に授業参観や学校行事をとおして、学校の取組を知ってもらう努力が必要になります。

インクルーシブ教育の視点は、今は社会全体に求められている視点でもあります。一人一人が輝く未来は、私たちが共に学ぶことから始まります。ご自身のまわりのインクルーシブの状況について少し考えてみていただけたら幸いです。

